

## 第2回現地研修会を開催 ——“水のまち”のくらしをめぐる——

### はじめに

稔の秋を迎えましたが、台風18号の強風により上川空知管内を中心に広い地域で稲の脱粒被害が発生し、全道的に収量の落込みが懸念されています。記録的な猛暑による早熟が結果的に仇となり残念な気持ちです。

農業被害は営農施設を含め過去最大規模となる模様で、農業関係者を始め家屋等の被害に遭われた地域の皆様には心からお見舞い申し上げます。

さて、道北技術士協議会では、去る7月16日に“水とくらし”に視点をあて現地研修会を開催しましたので、その概要を報告します。

### 1. 研修日程および概要

当日は、旭川市、札幌市、空知管内などから14名が参加されました。猛暑の到来を予感させるような暑い日差しの中、10時から16時までバスで移動しながら視察研修を行いました。概要は、次のとおりです。

(1) 研修名称：道北技術士協議会第2回現地研修会

(2) 日時：2004年7月16日(金)10:00-16:00

(3) 場所および内容

i) 北海道立上川農業試験場（上川郡比布町南1線5号）

試験研究概要講義、試験ほ場および施設視察

ii) 旭川市下水処理センター（旭川市神居町忠和287）

処理場概要講義、下水処理施設および下水資源多目的活用センター（通称バナナ館）視察

iii) 男山酒造り資料館（旭川市永山2条7丁目）

展示資料視察

(4) CPD時間：4時間

(5) 参加人員：14名

(6) 参加費用：2,000円（飲食代等）

### 2. 北海道立上川農業試験場

上川農業試験場は、1886(M19)年に旭川市神居に忠別農作試験所として創設され、1994(H6)年に士別の畑作・園芸科を統合して現在地に移転しました。当試験場では「きらら397」「ほしのゆめ」など多くの水稲優良品種の育成、栽培技術の確立を通して上川・留萌管内はもとより北海道稲作の安定生産を実現してきました。

研修では、まず水稲の試験研究、園芸、畑作物の栽培技術、環境保全・減化学肥料・クリーン農業技術など広範な研究の概要について講義を受け、その後、これらの試験研究に係るほ場や施設を視察しました。

試験ほ場では、道内品種と「コシヒカリ」等の道外品種が比較できるように栽培していますが、その歴然とした生育の差を見て、あらためて北の自然の厳しさを感じました。また、家畜排泄物や輪作障害への対策、直播栽培や冷涼気候野菜栽培の研究など地域農業の課題に取り組んでいる様子をうかがい、北



アスパラガスの露地立茎栽培（春から秋まで収穫を）

方での農業とくらしが、このような継続的な試験研究にささえられていることを痛感しました。(ご尽力に対し稲穂以上にこうべが垂れます。感動しました)

### 3. 旭川市下水処理センター

旭川市の下水道人口普及率は95.4% (全道平均85%) で、石狩川沿いには「下水処理センター」と「亀吉処理場」の2つの処理場があります。「下水処理センター」の処理能力は「亀吉処理場」の約3倍(126,000 m<sup>3</sup>/日)を有し、1981(S 56)年に運転を開始しました。

研修では、まず旭川広域圏下水道計画や施設概要についてビデオ学習し、その後、下水処理の過程や処理水、汚泥、消化ガスなどの下水資源を活用した下水資源多目的活用センター(バナナ館)などを視察しました。

反応タンク内(池)では、空気の吹き込みにより茶色の汚泥水が豪快に攪拌されていましたが、その隣の最終沈殿池では既に水が透き通り、金魚が泳いでいました。このときには、参加者から「おおっ!」という低い驚きの声もれていました。(驚きは、微生物の物凄い食欲? それとも清い放流水に対する安堵感?)

圧巻は、バナナ館。汚泥から作られた肥料と消化ガスで発電した電力を利用し、バナナなどの熱帯植物を育てていました。通称名の由来に納得です。

そのほか再生処理水を利用した「滝のトイレ」、焼却灰を利用した通路タイルなど下水資源の活用をいたるところで見ることができます。また、34 mmの降雨(時間最大計画雨量)も体験することができます。撥ね上がる雨粒を見ているとこの3倍にも達するという災害豪雨の凄さを想起できます。(但し、



最終沈殿池(あっ!金魚だ)

びしょ濡れになるので「雨ふり決死隊」になってご体験を)

### 4. 男山酒造り資料館

おいしいお酒のもとには、良い水、良い米、そして気候風土といわれます。

資料館前には「延命長寿の水」と呼ばれ、大雪山の万年雪に発するという伏流水が湧き出ています。そして、この水を「仕込み水」と謳っています。また『モロミの品温は最高で16度に押さえ低温発酵を行うことによりおいしい日本酒が作られる(資料提供:富樫巖氏一林産試験場)』ということなので、仕込みの時期を11~3月にしていることやおいしいお酒に気候風土が関係するという「いわれ」にもなるほどと頷けます。

このほか、「男山」は徳川將軍家の御膳酒に選ばれていたという理由から、喜多川歌麿などの浮世絵の背景に男山銘柄の酒が描かれているのを見ることができます。研修の締は試飲。(文化だと五臓が誘う試飲かな)

### 5. 参加者名簿

高玉 佳育	北電(株)発電本部土木部
中山 晃	ダイシン設計(株)
山崎 芳樹	(株)北開測地
北嶋 旭	(株)アサヒ建設コンサルタント
鈴木 英利	深川市水道環境部
新庄 泰公	(株)ルーラルエンジニア
小黒 博昭	(株)ルーラルエンジニア
岸上 勝昭	(株)ルーラルエンジニア
菅原 敏明	(株)ルーラルエンジニア
寺西 輝芳	旭川測量設計株式会社
富樫 巖	北海道林産試験場
鈴木 孝善	五大建設コンサルタント(株)
谷藤 義十	新谷建設(株)
遠藤 優	新谷建設(株)(道北協議会会長)

### おわりに

今回は、水と技術との関りを視察し研修しました。そして冷水下の生育克服、水の再生、下水資源の活用、冷涼自然水の利用など自然を暮らしに活かした技術を学び実感することができました。また、ここでは微生物や菌が重要な役割を果たしているという共通点も見え、有意義な研修になりました。

最後にセンター会員皆様のご健勝をお祈り申し上げ、道北技術士協会からの報告とさせていただきます。

(文責:道北技術士協会副会長 菅原 敏明)